口絵 2 : 韓国, 徳崇山の花崗岩トアに発達するタフォニとナマ
Pictorial 2 : Tafoni and Gnammas on Granite Tors on Mount Doeg-Sung, Korea

写真 1 徳崇山南部の尾根とトアの分布
(a) とトアの一例 (b).

徳崇山は、ソウルの南西部、忠清南道の北西部に位置する伽倻山の一部をなす標高 495 m のなだらかな山容をもつ。山体南部は中粒黒雲母花崗岩で構成されている。山腹には多数のトアがみられ、そのトアの多くには見事なタフォニが形成されている。一般にはトアは基盤岩と連結しているが、(b) のように、根のないブロックも稀には存在する。左右の Tor-11 と Tor-12 のブロックに載った Tor-13 の底面（陰になっている部分）には、径数 10 cm ほどのシーリングタフォニが 10 個ほど形成されている。

写真 2 タフォニの形成に関与する岩石のシュミットロックハンマー反発値 (R 値) と含水比を計測したトアの例。
(a) Tor-3 における R 値と含水比を計測した面。トア上部には比較的大きなナマが形成されている。
(b) Tor-10 の全景。メジャーをおいてある方向が測線：右に立つ人物の腰のあたりにサイドウォールタフォニがある。

写真3 徳崇山で見られた種々のタフォニやナマ。

- (a) 入れ子構造のタフォニ：Tor-1 の T-1 タフォニの中に小さなタフォニが形成されている。タフォニの内壁には塩類の析出がみられる。また、タフォニ底には内壁から剥離した粒状物質が堆積しており、この量は半年で約 2.5 g ほどであった。
- (b) ナマの例：メジャーが置いてあるのが、Tor-8 の G-1 ナマに相当する。その左側にはサイドウォールタフォニが形成されている。
- (c) 入口が円形のサイドウォールタフォニの例：Tor-10 の T-1 タフォニ。タフォニ底の前にはコケが生育しており、奥にはマサ状の粒状物質が堆積している。
- (d) 縦長の形状をもつサイドウォールタフォニの例 (Tor-9)。
- (e) サイドウォールタフォニの例：Tor-6 の T-6 タフォニ。タフォニ底の奥にはコケが生育している。
- (f) ペイサルタフォニの例：トアの基部に形成されるペイサルタフォニは、横に長い形状となることが多い。

(松倉公憲・田中幸哉 Yukinori MATSUKURA and Yukiya TANAKA)